

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
---------	--------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課文化振興室長 柳樂ひとみ	電話番号	0852-22-6776
----------	-------------------	------	--------------

事務事業の名称		芸術文化センター事業
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	文化芸術に対する県民の関心が高まる
事業概要	県民に、感動や喜び、安らぎ、創造力や表現力、豊かな感性をもたらし、心豊かな生活を実現できるような環境づくりをめざし、石見美術館では、県民（特に西部）の希望の高い企画展や石見美術館ならではのファッション関連のコレクション展等を開催し、芸術劇場では、全国的に人気のあるミュージカル、コンサートなどを行うほか、地元の伝統芸能である神楽や系探り人形、キッズたちも交えたダンス公演、環日本海交流合唱祭、あるいは、美術館の企画展とコラボしたパフォーマンスを行なっている。また、育成事業、アウトリーチ事業にも力を入れ、多様で質の高い美術、音楽、演劇その他の芸術文化の鑑賞及び創造の機会を提供している。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	芸術文化センターの入館者	目標値	330,000.0	330,000.0	330,000.0	330,000.0	人
	式・定義	入館者数	取組目標値					
			実績値	393,066.0	421,048.0			
			達成率	119.2	127.6	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	415,345	420,635
うち一般財源 (千円)	216,926	193,841

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・島根県民会館の耐震補強工事のための休館に伴い、コンサートの全国ツアーを例年（2～3件）の3倍近い、8件実施した。
 ・指定管理者と県部門とが密接な連携・協力の下、広報・営業に取り組んだ成果により、マリメッコ展は目標入館者数に対して約260%となる20,788人、ミッフィー展は目標入館者数に対して約160%となる15,912人、芳年展は目標入館者数に対して約108%となる7,541人の大勢の観客に会場いただいた。
 ・ボランティア団体（のべ130名）との協業（生花の配置、敷地内クリーンアップ、発送物の発送作業サポート、ギャラリートーク等）、また職員の研修（あいさ波特研修、人権同和研修等）、「ホスピタリティーマネジメント」の導入などにより、おもてなしの心で接するサービス体制が充実。
 ・来館者アンケート：1,017人、企画展のモニタリング：3,484人、施設利用者：681団体（人）、文化事業入場者：13事業（27回分）による満足度調査では、それぞれ97～98%の満足度を得た。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・石見美術館の入館者数が、6年ぶりに10万人台（103,547人）となった。
 ・年間入館者数が421,048人となり、平成18年度の446,530人にくぐり、開館以来2番目の入館者数を記録した。
 ・開館11年目で、総入場者数400万人を達成。（4月7日）
 ・企画展「原田直次郎展 西洋画は益々奨励すべし」が2016年 美連大賞を受賞。
 ・指定管理者と県部門とが密接な連携・協力の下、広報・営業に取り組んだ成果により、マリメッコ展（約21,000人）、ミッフィー展（約16,000人）、芳年展（約7,500）と入場目標値を超える大勢の観客に会場いただいた。
 ・平成28年9月～11月に東京のパナソニック汐留ミュージアムでコレクション展を開催し、首都圏の服飾美術関係者の関心を集めた。
 ・芸術劇場では、グラントワカンタート等、県内外の合唱関係者が交流する企画を新規に実施した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
 ・入館者数が企画展の内容に大きく左右される。
 ・ホール利用者はあまり伸びていない。
 ・修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。計画修繕のほか、緊急修繕も増加する見込みである。

②困っている状況が発生している「原因」
 ・圏域人口は、6万人ほどであり、地元からの集客には限界がある。
 ・開館から10年が経過し、施設、設備が老朽化している。

③原因を解消するための「課題」
 ・より多くの方に来館してもらえるような企画・広報の実施。
 ・来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理の実施。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・幅広い年代にアピールできる企画展を開催する。また、指定管理者とも連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。
 ・ホール事業では、人材育成にもつながる企画を積極的に展開する。
 ・指定管理者とも連携し、広島・山口だけでなく、首都圏からの集客も意識した積極的・広域的な広報活動を展開する。
 ・管財課や指定管理者とも連携し、計画的な修繕を行う。